

# Cisco Business 250または350シリーズスイッチでインターフェイスVLANをアクセスポートまたはトランクポートとして割り当てる

## 目的

この記事では、Cisco Business 250または350シリーズスイッチのインターフェイスVLANをアクセスポートまたはトランクポートとして設定する方法について説明します。

## 該当するデバイス | ソフトウェアバージョン

- CBS250 ([データシート](#)) | 3.0.0.69 ([最新版をダウンロード](#))
- CBS350 ([データシート](#)) | 3.0.0.69 ([最新版をダウンロード](#))
- CBS350-2X([データシート](#)) | 3.0.0.69 ([最新版をダウンロード](#))
- CBS350-4X([データシート](#)) | 3.0.0.69 ([最新版をダウンロード](#))

## 概要

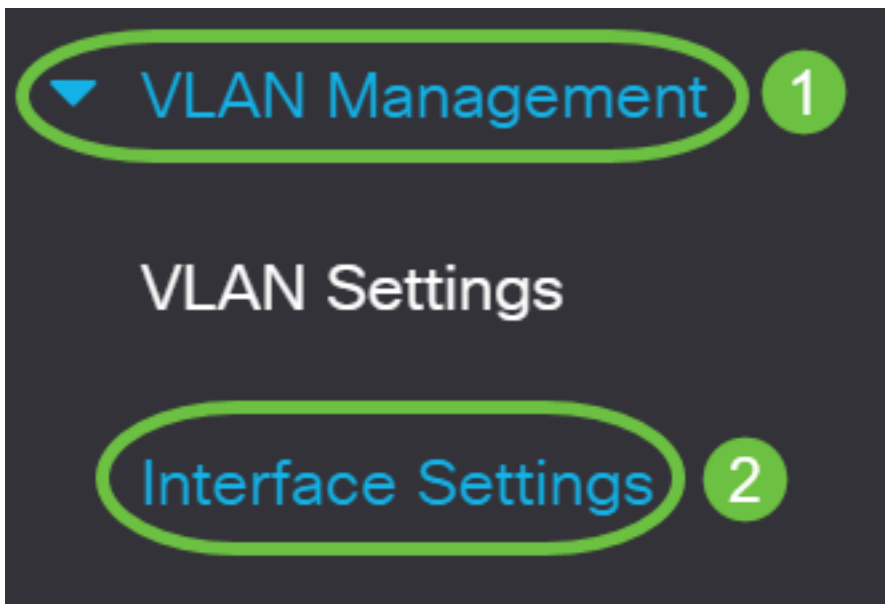
仮想ローカルエリアネットワーク(VLAN)は、物理ローカルエリアネットワーク(LAN)に関係なく、デバイスがイーサネットMACレイヤを介して相互に通信できるようにするポートグループです。ポートは、VLANとの間でデータの送受信が可能な場合、VLANのメンバーです。VLAN内のポート宛てのすべてのパケットにVLANタグが付けられていない場合、ポートはVLANのタグなしメンバーです。ポートは、そのポートを宛先とするすべてのパケットにVLANタグが付いている場合、VLANのタグ付きメンバーです。VLANは通常、エンドポイントをワークグループとして分離するために使用されます。基本的な例として、音声用に別のVLANを、データ用に別のVLANを設定します。これにより、両方のデータタイプのパケットが互いに分離され、スイッチの使用率が最大化されます。

インターフェイスVLANは、アクセスポートやトランクポートなどの特定のモードに割り当てることができます。

- アクセスポート：割り当てられた特定のVLANとの間でのみトラフィックを伝送するポート。
- トランクポート：特定のスイッチからアクセス可能な任意またはすべてのVLANのトラフィックを伝送できるポート。

## インターフェイス設定

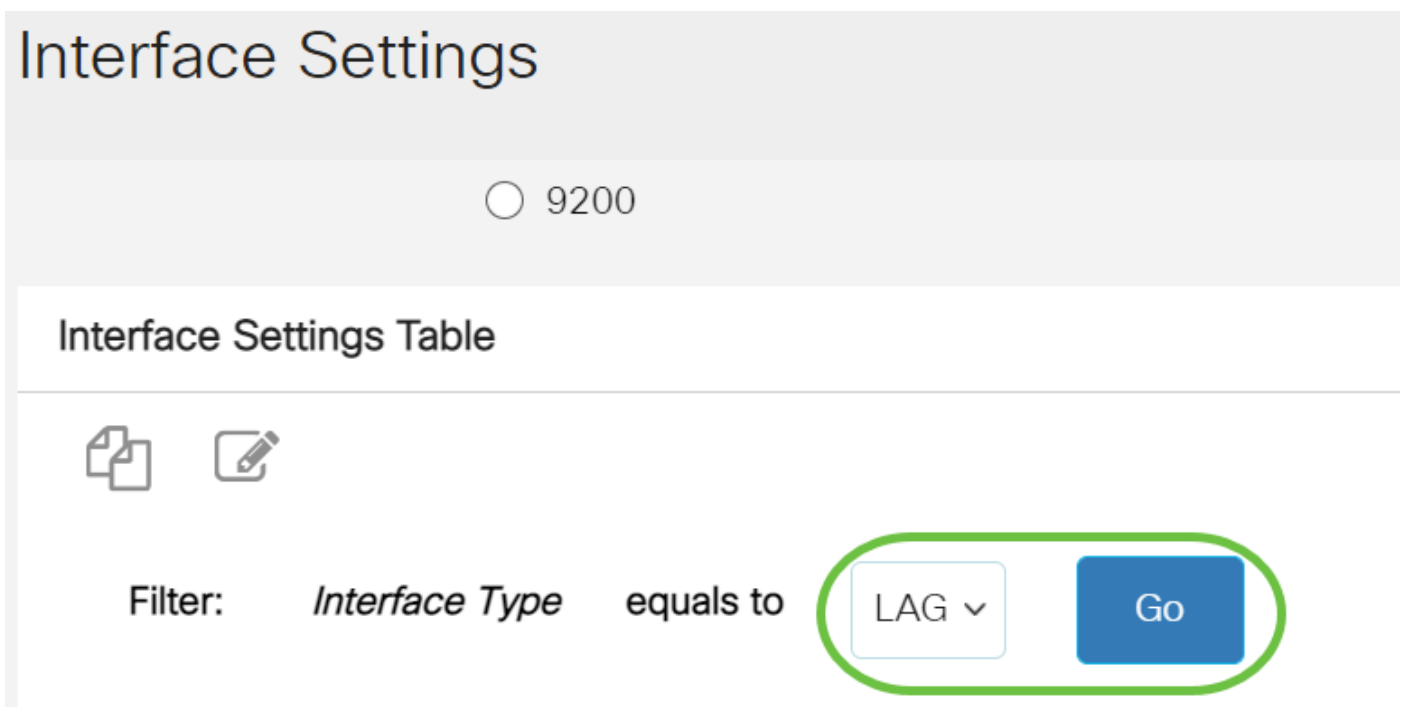
ステップ1: Webベースのユーティリティにログインし、[VLAN Management] > [Interface Settings]を選択します。



ステップ2:[Interface Settings Table]で、[Interface Type equals to]ドロップダウンリストからインターフェイスを選択し、[Go]をクリックします。次のオプションがあります。

- [Port]:1つのポートだけを設定する必要がある場合は、[Port]を選択します。
- Link Aggregation(LAG):LAG設定で定義されたポートのグループを設定する場合は、[LAG]を選択します。

次の例では、LAGが選択されています。



ステップ3 : 変更するポートまたはLAGのオプションボタンをクリックし、[Edit]をクリックします。

## Interface Settings

2

Filter: *Interface Type* equals to LAG

1	Entry No.	Interface	Switchport Mode	Interface VLAN Mode	Ethertype Tagging	Frame Type	Ingress Filtering
<input checked="" type="radio"/>	1	LAG 1	Layer 2	Access	Dot1q - 8100 (Global)	N/A	N/A
<input type="radio"/>	2	LAG 2	Layer 2	Access	Dot1q - 8100 (Global)	N/A	N/A

ポップアップウィンドウが表示され、前のページで選択したインターフェイスタイプが表示されます。

## Edit Interface Settings

Interface:  Port   LAG

ステップ4：インターフェイスの目的のVLANモードに対応するオプションボタンを選択します。

- アクセス：インターフェイスは、単一のVLANのタグなしメンバーです。
- トランク：インターフェイスは最大1つのVLANのタグなしメンバーであり、1つ以上のVLANのタグ付きメンバーです。

Interface VLAN Mode:

Ethertype Tagging:

Frame Type:

この例では、[Trunk]が選択されています。

ステップ5:[Apply]をクリックします。

## Edit Interface Settings

X

Interface:  Port GE1  LAG 1

Switchport Mode:  Layer 2  
 Layer 3

Interface VLAN Mode: Trunk

Ethertype Tagging:  Use Global Setting (Dot1q)  
 Dot1q - 8100  
 Dot1ad - 88a8  
 9100  
 9200

Frame Type:  Admit All  
 Admit Tagged Only  
 Admit Untagged Only

Ingress Filtering:  Enable

Primary VLAN: None

Apply

Close

ステップ6 : ページに、設定が成功したことを示すチェックマークが表示されます。[Close] をクリックします。

## Edit Interface Settings

X

Interface:  Port GE1  LAG 1

Switchport Mode:  Layer 2  
 Layer 3

Interface VLAN Mode: Trunk

Ethertype Tagging:  Use Global Setting (Dot1q)  
 Dot1q - 8100  
 Dot1ad - 88a8  
 9100  
 9200

Frame Type:  Admit All  
 Admit Tagged Only  
 Admit Untagged Only

Ingress Filtering:  Enable

Primary VLAN: None

Apply

Close

インターフェイス設定テーブルに戻ります。

ステップ7 : 最近の設定を確認するように設定したインターフェイスモードを確認します。

## Interface Settings Table



Filter: *Interface Type* equals to

LAG ▾

Go

	Entry No.	Interface	Switchport Mode	Interface VLAN Mode	Ethertype Tagging
<input type="radio"/>	1	LAG 1	Layer 2	Trunk	Dot1q - 8100 (Global)
<input type="radio"/>	2	LAG 2	Layer 2	Access	Dot1q - 8100 (Global)

ステップ8：現在の設定を永続的に保存するには、点滅している保存アイコンをクリックします。



CBS350-8P-E-2G - swi...



## Interface Settings

これで、Cisco Business 250または350シリーズスイッチのインターフェイスVLANが正常に割り当てられました。

ご使用のCiscoビジネススイッチのVLANの詳細を探していますか？詳細については、次のリンクを参照してください。

[VLAN の作成](#) [ポートからVLANへのメンバーシップ](#) [プライベートVLANメンバーシップ](#) [アクセスポートとトランクポート](#) [VLANへのプロトコルベースグループ](#) [ポートからVLANへの設定](#) [サブネットベースのVLAN](#) [VLANへのマルチキャストTVグループの設定](#) [プロトコルベースのVLANグループ](#) [アクセスポートマルチキャストTV](#) [VLANメンバーシップ](#) [カスタマーポートマルチキャストTV](#) [VLANメンバーシップ](#)